

## 古野電気株式会社



1938年創業。1948年に世界で初めて魚群探知機の実用化に成功され、現在も総合船舶用電子機器メーカーとして世界トップシェアを誇っています。Sensing (センサー)、Processing (信号処理・情報処理)、Communication (情報通信) という3つの技術をコアテクノロジーに、お客様へ「見えないものを見るための装置」や「確かな情報を得るための装置」を提供されています。



(左) 船用機器事業部 開発部 機構開発課

射延 一樹 様

(中央) 調達センター 調達企画1課 第2係 主任

山上 久孝 様

(右) 調達センター 調達企画1課 第2係

野林 宏 様

高い要求にも標準品で対応できる、製品ラインナップの豊富さがTHKの魅力です。

貴社がTHK製品を採用された経緯を教えてください。

THKさんのお付き合いは、10年ほど前に当社製品の駆動軸にすべり機構を採用させていただいたことが始まりです。船舶用電子機器の中で、周囲方向を感知するためのソナーは船底からセンサーを海中へ出し入れする必要があり、その昇降装置の駆動軸としてTHKさんの製品を使わせていただいているのですが、このソナーの上下動における高速化は、当社の研究開発における重要テーマとなっていました。今回、ソナーの新製品でもTHKさんの転がり機構を採用させていただき、従来にない高速化を実現することができました。具体的には、ソナーの昇降に掛かる時間が当社の従来製品よりも大幅に短縮されています。



赤部分がセンサー  
内部の昇降部分に転がり機構を採用

採用の決め手はなんですか？

新製品では、少しでも速く上下動させたいという開発目的があり、そこにたどり着くにはどうしても「すべり」ではなく、「転がり」を利用した機構を使う必要があったのですが、この機構に関する製品ラインナップが最も豊富だったのがTHKさんでした。外径が大きいという仕様を考慮すると、他社製では標準品で対応できず特注となってしまうため、標準品で調達可能なTHKさんに決めました。

従来、ソナーの昇降にはそれなりの時間が必要で、当社製品のお客様である漁師の方は、停船してソナーの昇降完了を待たざるを得ませんでした。新製品では即座に昇降できるため、魚群を感知した後すぐにソナーをしまっ、他の船に先駆けて漁場へ駆けつけることができるようになったと非常に喜ばれています。

今後THKに期待することをお聞かせください。

お客様に安心してお勧めできる製品作りのため、当社の品質基準も毎年のように改定され厳しくなっています。THKさんには、引き続き当社の品質保証にご協力いただきたいと思います。